

宮本地車噺



第 11 回「大阪夏の陣 天王寺・岡山合戦」

豊臣軍と幕府軍の最後の決戦である大阪夏の陣は慶長二十年（1615 年）の出来事です。我が宮本地車見送りにには大阪夏の陣における櫛井合戦、八尾・若江合戦そして今回ご紹介する天王寺・岡山合戦の様子が見事に再現されています。天王寺・岡山合戦は攻める幕府軍 15 万、守る豊臣軍 5 万という戦国の世最大にして最後の戦いと言われる合戦です。合戦が始まると兵力で圧倒的な優位を誇る幕府軍でしたが先方戦で敗戦、また前例の無い大軍での指揮系統の乱れやデマによるかく乱により一時は本陣近くまで兵が引いてしまうようなこととなりました。この時を好機とみた真田幸村は自ら家康本陣へと突進しました。幸村に恐怖を感じた家康は幸村に背を向け逃げ出してしまうます。



見送りの俯瞰 奥板には炎上する大坂城が見える。



真田幸村



高を括ったのか軽装の家康

さて、家康をあと一步のところまで追い込んだ幸村でしたが、わずかな休息を求め安居神社に居たところを討たれてしまいます。開戦から 3 時間後、数で勝る幕府軍により形勢逆転、豊臣軍は総崩れとなり大坂城は炎上してしまいました。

ここで一つ興味深いお話をしたいと思います。
堺市にある南宗寺という古いお寺の建物跡から隠すようにした家康の墓らしきものが出土しました。夏の陣、幸村に追われた家康は籠に乗って逃げ、その時に籠ごと槍で突かれ大怪我をしたそうです。大怪我をした家康はこの寺に匿われましたが数日後に命を落としたということです。また何故か、江戸からわざわざ息子秀忠、孫の家光が参った記録もありこの伝説が真実味を帯びてきます。籠に乗った家康を槍で突いたとされるのは後藤又兵衛です。
宮本地車にも穂先二尺六寸（約 78 センチ）柄が七尺五寸（約 225 センチ）の長槍「日本号」を持った鬼の形相の後藤又兵衛が右の摺り出し受けに刻まれています。



後藤又兵衛
史実ではこの場面には居ないはずの又兵衛がここに刻まれているのは・・・



南宗寺
家康の墓
卵形の墓標には何も記されていない。